

「家庭の節電」の基本

「節電」というと、「エアコンを消して暑さを我慢」というイメージの方もいるかと思いますが、しかし暑い中でエアコンを我慢して熱中症になってしまつては本末転倒。節電を求められている量によりますが、今は、何にどれだけ電力が消費されているのかをきちんと把握し、無駄な使い方をしなければ、大きく節電できます。

消費電力を しっかり知る

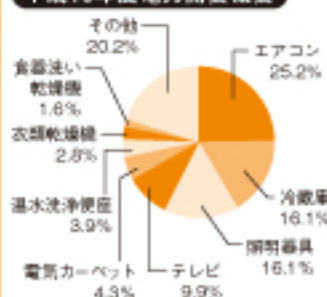
上のグラフが資源エネルギー庁が発表した家庭における「平成16年度電力需要概要」のグラフです。これは年間を通しての消費電力の内訳になっていますが、上位4つの合計で約70%！まずは、消費電力の大きなものを無駄をなくして使うことで大きな節電につながります。

そして下のグラフは新しく発表された、夏の14時の消費電力の内訳を想定したものです。

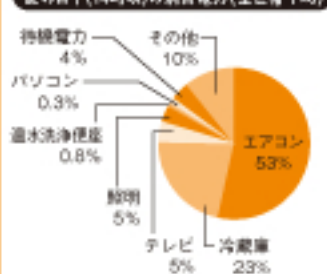
季節や時間帯によって、消費電力の内訳も大きく変わるので、これを意識して電気を使うと効果的です。効果の少ない節電をして満足をしたり、やりすぎて体調を悪くしないように注意してください。

「暑がりだからエアコンを我慢したくない」と思う方は、照明やテレビを節電するなど、自分の家での消費電力を把握し調整していくと、無理がなく節電することができます。

平成16年度電力需要概要



夏の14時(14時頃)の消費電力(全世帯平均)



節電を考えた 家事スケジュール

夏は9～20時が電力需要が増える時間帯。掃除機や洗濯乾燥機、電気炊飯器、食器洗い乾燥機などの消費電力の高い家電はこの時間帯を避けるよう、あらかじめ家事スケジュールをたてておくことをおすすめします。また掃除機であれば、ほうきやペーパーモップに替えたり、洗濯乾燥機は洗濯のみにし天日干しにする、ノート型パソコンを使っている人は夜間のうちに充電し、日中はバッテリー駆動で使用するなどの工夫をすると節電につながります。

必要な時だけ使う 意識改革を！

テレビやパソコン、照明などは比較的つけっぱなしにされやすいものです。「使わないときは消しましょう」という考え方はもちろん間違っていないと思いますが、むしろ「使うときだけつけるように」という意識をもったほうが、自分がいかに今まで無駄に消費していたかに気づきます。